

コモンズセンター 学生の「人間力」を育てるために

コモンズセンター長 生命医科学科 准教授 伊藤守弘



「不言実行館 ACTIVE PLAZA」にコモンズセンターがオープンして3カ月が経過しました。ここであらためてコモンズセンターをご紹介しますので、ご紹介します。

“何かが動き出す” そんな予感がする場所

“コモンズ”とは、「共有のスペース」を意味します。学生の主体的、自主的な学びの場所であることに加えて、学生相互の交流や教職員とのコミュニケーションを高める場所でもあります。

今、大学に求められているのは、学生が自ら考え、学生同士で対話し、さらに刺激し合うこと、また、新たな気づき、そして行動することを促す教育プログラムであると言われていています。これまで中部大学では、学生ホールや学生ラウンジなど、学生が自学習をはじめ放課後に集うためのスペースをキャンパス内に数多く提供してきました。そして、その活用や成果は学生生活に潤いをもたらす勉強への力を与えています。しかし、時代の変化も反映し、主体的に人間関係を築くことが強く求められる中、新しい発想で学生同士が積極的に交流できる環境の整備と、これ

を活用するプログラムが必要となりました(詳細は128号の本誌に山田公夫不言実行館長がご執筆されていますので、再読していただきたく思います)。そこで、環境の整備としてこれまでの本学には無かった新しいコンセプトの施設が誕生しました。

このような背景の中、コモンズセンターは、学生が自ら学び、人間力を高めるための施設で、学生が能動的に“学ぶ”を養う場としてスタートしました。学びの場ではありますが、正課の授業では使いません。そして、食事や休憩をする場所でもありません。コモンズセンターのコンセプトは、学生が自由に集い、自由な発想で使用できる、みんなの「居間」のような場所です。そして、学生自らの力で育て、創る、シェアスペースです。居心地の良さを備えた空間には、ひとりでもグループでも利用できる有意義な学習環境が築かれ、学生が学生たちの学習や活動をサポートし、運営を進めるのが特色です。「“何かが動き出す”そんな予感がする場所」だと表現したいと思います。

学生による学生のためのサポート

コモンズセンターの運営は、学生のための施設である以上、学生に担ってほしいと構想の時から考えていました。そこで、「学生の学生による学生のためのサポート」の提供を目指し、「コモンズサポーター制度」を設置し、コモンズサポーター制度をコモンズ・インターンシップと位置付けました。実社会に出る前に就業経験を積み、「仕事とは何か」「社会とは何か」「責任」につい

て学んでもらうことが目的です。現在、23人の学生がコモンズサポーターとしてコミュニケーションスキルなど必要な基礎知識を学ぶ研修を重ね、オープンを迎えました。コモンズサポーター制度の設置には、多くの方々のお力添えにより実現することができ、大変感謝しております。

現在、第一段階としての業務(ICT機器の貸し出しや予約受付など)を習得し、問題無く運営されています。さらに、コモンズサポーター自らが発信していく力をつけてほしいと考えています。今後、コモンズサポーターがさらなるバージョンアップを図るために、企画力や交渉力などを身に付けられるよう、育成に力を入れています。

教職協働によるサポート

大学において、教職協働という言葉が一般的に使われるようになってきたと感じます。構成される文字を見る限り、教員と職員が協力し合って働くことであると理解され、これは同一組織の中で、同一理念を実現するためには、自明のことだと思います。コモンズセンターでは、教職協働で「学生自らの力で育て、創る」をサポートします。

特にコモンズサポーターの育成面において、教職協働は不可欠です。まず、コモンズサポーター制度を設置しましたが、管理面では職員の関わりが大変重要であり、センター長を含め、3人の教員はその専任ではありません。コモンズサポーター(学生)に接する時間は圧倒的にコモンズセンター事務室の職員が長くなります。善久裕司課長をはじめ課員に



スチューデント・コモンズ

は、コモンズサポーター制度を運用するシステムの構築に大きく関わっていただきました。単に教員と職員とが役割分担するのではなく、お互いの能力や特質を生かしつつ、溶け合うような関係で多様な学生支援を展開する関係でなければならないと考えています。今後、さらにコモンズセンターの教職員スタッフがチーム力を高め、教員と職員とが目標を共有しつつ協働して学生支援にあたります。

コモンズコンシェルジュ

コモンズセンター3階にはコンシェルジュデスクを設置しています。コモンズコンシェルジュは、平井芽阿里講師と岩間優希講師（どちらも全学共通教育部全学総合教育科）に担当していただいています。コモンズコンシェルジュは学生の「したい」こと、「やりたい」ことを実現するためのアドバイスや情報提供を行う教員です。「勉強の仕方を教えてほしい」「ゼミの発表を成功させたいのでプレゼンにアドバイスを欲しい」といった日常の学生生活に関するものから、「学内でこのような企画がやりたいが可能か」といったような、学生が自ら企画立案するプロジェクトへのサポートまで、学生が自ら主体的に考え動き出したことへの後押しを行います。

周知の通り、昨今の教育においては、教員が学生に一方向的に教えるだけでなく実際に体験させることが重



コモンズコンシェルジュデスクで
学生と向き合う岩間講師

要視されています。中でも、自分がやりたいと思ったことを実現させ形にするということは、学生たちにとって貴重な経験となるに違いありません。もちろん学生だけでは難しい問題に突き当たることもあるかと思いません。「アルバイトと学生生活をうまく両立させたい」「やりたいことや夢を見つけないけど自分ではなかなか探せない」など、困った時に、やり方を教えたり、問題解決のヒントを与えたりするのもコモンズコンシェルジュの役割です。

このように、コモンズコンシェルジュは授業のこと、友達のこと、サークルのこと、家族のこと、将来のことなど、あらゆる学生の相談に対応していきます。「悩み相談」というよりは「状況を改善したい」「充実した学生生活を送りたい」など、学生が心から「したい」と思うことを実現するために一緒に考えていきます。

さらに、コモンズサポーターから提案されたさまざまなアイデアを実現できるようなサポートも行っています。コモンズセンターを通じた他学科間の交流活動や地域との関わり合いなど企画の実践を通して、コモンズサポーターの企画実行力や自主性、創造性やコミュニケーション能力といった人間力の育成にも努めています。

そのような形で中部大学の学生をより活発にしていくことが、他にはないコモンズコンシェルジュの特色であり意義だといえます。

コモンズセンターの近況

コモンズセンターは多い日には300人を超える利用者がいます。利用形態もさまざまで、クラブ・サークルの発表や打ち合わせ、資格取得の勉強会や個人での勉強、仲間と共にレポート作成、プロジェクトの議論など、実に多様です。4月のオー



ラーニングエリアでの利用

ブン以来、利用マナーの良さは特筆に値します。オープン前にさまざまな事例を想定し、その対処を考えていましたが、杞憂に終わりました。

おわりに

「不言実行館 ACTIVE PLAZA」は学生が自ら学び、人間力を高め、あてになる人間として成長することを期待して建設されました。人間力とは、(定義に議論の余地がありますが)自ら考え生きる力だと思えます。人生はさまざまで、いろいろな人生があって良いと思います。どのような人生を送るのも、学生自身の価値観の問題であり、他人がとやかく言うものではありません。しかし、最近の学生と話をすると、(一部の学生ですが)人生の目標や戦略を全くと言っていいほど持っていないことに驚かされます。混乱している学生もいれば、何も考えていない学生もいます。さらに残念に思うのは、目標と戦略がミスマッチしている学生です。高い目標を掲げているのですが、戦略がそれにマッチしていなければ、結果が伴いません。情報通信技術等が急速に発達したこの時代、多くの物事が以前よりも加速しており、何度もやり直しが許されるようなのんびりとした時代ではありません。学生時代の選択ミスが致命的ですらある恐れがあります。だからこそ、コモンズセンターでの学びを通じて人間力を磨き、生き方を定めてほしいと願っています。